



新学習指導要領におけるキャリア教育について（3）

今回はキャリア教育の今後の方向性について紹介します。

「基本的な方向性」

- 特別活動の学級活動・ホームルーム活動を要としつつ、総合的な学習の時間や学校行事、道徳科や各教科における学習、個別指導としてのカウンセリング等の機会を生かしつつ、**学校の教育活動全体を通じて実施すること**
- 特に**日常の教科等の学習指導においてキャリア教育の視点を大事にし**、将来の生活や社会と関連付けながら見通しをもったり、振り返ったりしながら学ぶ「主体的・対話的で深い学び」を実現すること
- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である「**基礎的・汎用的能力**」を育成すること
- キャリア教育を実践し、学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連付け、将来の夢と学業を結びつけることにより、**児童生徒の学習意欲を喚起すること**

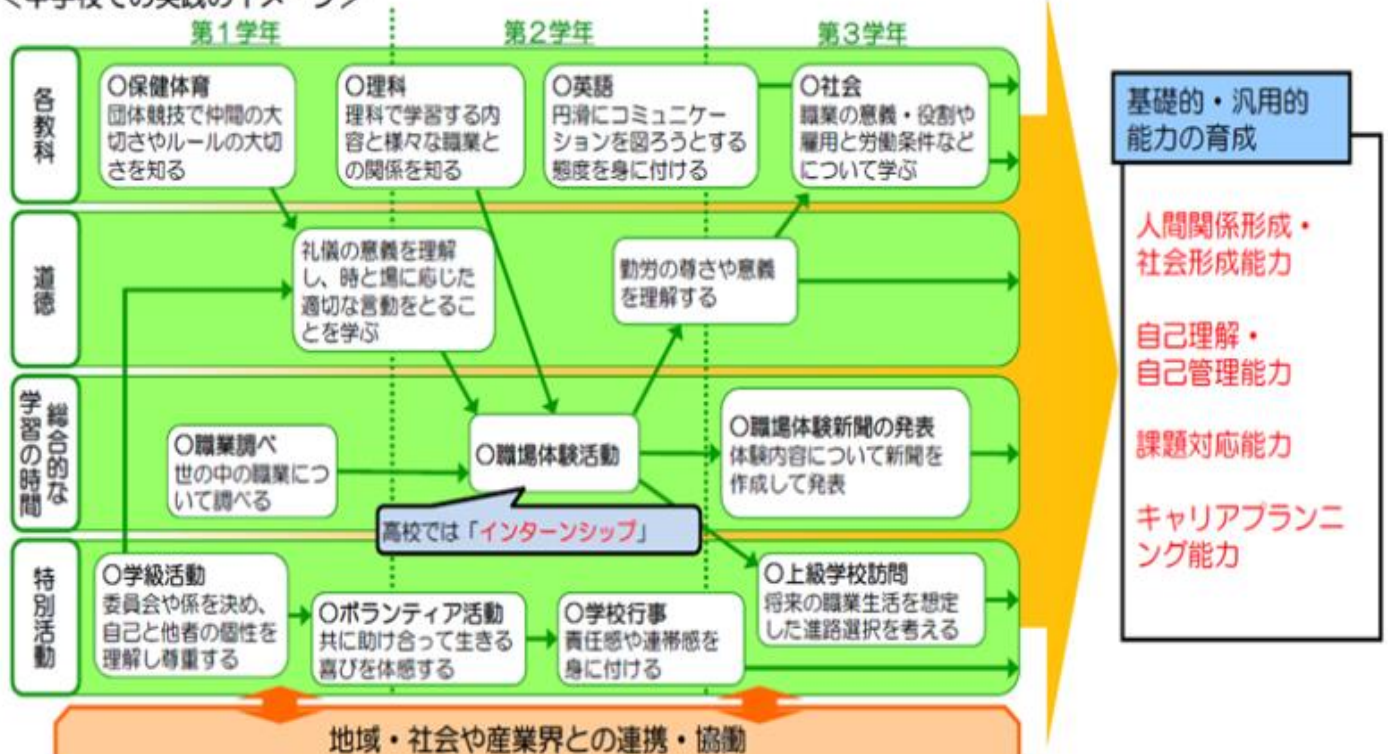
「学校における具体的な方向性」

- 学校における**体系的・系統的なキャリア教育実践**の促進
- 職場体験活動や（アカデミック）インターンシップなどの職業に関する**体験活動の充実**
- **学校と地域・社会や産業界等が連携・協働**した取組の促進
- 児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等（**キャリア・パスポート（仮称）**）の活用

次に具体的な実践の在り方を紹介します。

（1）学校の教育活動全体を通じて実施する。

<中学校での実践のイメージ>



① キャリア教育を通して「身に付けさせたい力」を設定する。

これまでの抽象的・情緒的な「身に付けさせたい力」「目指す児童・生徒像」などから脱する。



例 1：よりよい未来を創造する力

例 2：率先して困難に立ち向かうたくましい生徒

※ 「基礎的・汎用的能力」をたたき台にしながら、目の前のこの子たちに「卒業時点でできるようになって欲しいこと」を具体的に設定することが肝要である。

例：〇〇のような場面で、△△することができる。



例 1：失敗した時に、その原因を考えることができる。

例 2：他者が理解できるように説明することができる。

基礎的・汎用的能力はラベルでしかない



各学校の子供の姿や地域の実情から具体的に身に付けさせたい力を設定する必要がある！

② 「身に付けさせたい力」をもとに検証・評価する。

身に付けさせたい力を疑問形に変換してアンケート調査項目を作る。

例：【目標】必要なことは、不得意なことがあってもすすんで取り組むことができる。

【アンケート項目】あなたは、必要なことは、不得意なことがあってもすすんで取り組んでいますか？

※ 主語を「生徒」や「お子さん」等に変えれば、教員にも保護者にもアンケートがとれる。

キャリア教育の「身に付けさせたい力」を地域等と共有すれば「社会に開かれた教育課程」にもつながる。

「社会に開かれた教育課程」

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標をもち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力は何かを、教育課程において明確化して育てていくこと

次号では以下の内容について紹介します。

- (2) 日常の教科等の学習指導及び職場体験活動・(アカデミック) インターンシップなどの職業に関する体験活動を充実する。
- (3) 特別活動の学級活動・ホームルーム活動を要とする。